

# はしがき

法律文化社の「18歳から」シリーズは、大学新入生を対象に、高校までの“勉強”とはひと味違う“学問”のおもしろさを感じてもらおう入門書として位置づけられています。

また、本書『18歳から考えるワークルール』には入門書という性格に加え、実践的に役に立つ情報や知識を提供しようというねらいを込めています。それは、私たちが生きていくために、働くことは不可欠の活動だからです。学生時代にアルバイトを経験していなくとも、大学を卒業する段階でほとんどの学生が就職することになるでしょう。

どのように働くかは、人によって様々ですし、雇用のあり方も身分の安定している正規雇用と、期間を限定して雇われるなど不安定な立場で採用される不安定雇用とに二分されます。雇用者のうち、非正規雇用は40%前後を占め、特に若年層で非正規雇用の割合が高くなっています。また、正規雇用だからといって、必ずしも労働条件が良好だとは限りません。転職の可能性が高く、労働時間も長時間となりがちです。仕事のストレスでうつ病になることもめずらしくありません。

このように、学生時代のアルバイトも含めると、老齢年金で生活するようになる(?)65歳までのほぼ40年間、私たちはワークルールと密接に関係することになります。そこで本書では、働くことを次の5つのフェーズに分けました。Ⅰ仕事をはじめ、Ⅱ働く、Ⅲ働き続ける、Ⅳ仕事をやめる、そしてⅤ職場のトラブル、です。本書はこれらのフェーズをさらに細分化して、それらに関連するワークルールの解説を試みています。

本書で扱っているワークルールは、アルバイトや非正規雇用だけでなく、正社員にも関係するものです。したがって、学生時代のアルバイトだけでなく、就職活動にも関係しますし、正社員になってからも、あなたが疑問に思ったことに対する解決に向けた考え方を示しています。この意味で、本書は大学を卒業して就職した後にも役に立つことを願って編集しました。

なお、各章の理解度チェックを設けています。章末のQRコードからアクセスし、チャレンジしてみてください。

2018年1月に出版した本書第2版から、約6年半を経て第3版を刊行することができました。第3版では、2018年の働き方改革関連法をはじめとした法改正を反映するとともに、時代の変化にあわせて高齢者・障害者・外国人雇用に関するワークルールを解説する8章を新たに加えました。

2022年の冬から編者3人で協議しながら改訂作業を進めていましたが、残念ながら2023年8月20日に道幸哲也先生が逝去されました。改訂作業の道半ばの突然のことであり、改訂にも関与されていなかったので、道幸哲也先生を編者として記載しています。

本書初版・第2版の編集については、企画段階から、小西英央さんに大変お世話になりました。また、第3版の刊行にあたっては舟木和久さんにお世話になりました。ここに、あらためてお礼を申しあげます。

編者 道幸哲也・加藤智章・國武英生